

プロが語る 胸アツ「神」漫画 1970-2020

きたがわ翔

Kitagawa Sho

目次

まえがきにかえて

第一章

不朽の名作『ドカベン』と『スラムダンク』

——水島新司から井上雄彦への系譜

スポーツ漫画の金字塔／日本が誇る二大「化け物コンテンツ」／全二〇五巻にものぼる
壮大な物語／『ドカベン』と『スラムダンク』の関係／苦勞して漫画家に／生きる伝説水
島新司／「野球漫画」の歴史／伝説の漫画『イガグリくん』／「イガグリくん事件」／シリ
ーズ史上最高傑作の第三一卷／なぜ山田には両親がいないのか／なぜ里中はアンダー
スロー投手になったのか／殿馬一人と流川楓／福井英一先生の魂を受け継いだ漫画
家／水島漫画を受け継ぐ作品／日本を代表する漫画家・井上雄彦／大友克洋の衝撃／ヤ
ンキーセンスの持ち主／『スラムダンク』は「岩鬼と殿馬の物語」／井上先生の絵柄の変
遷／スポーツと漫画の関係

第二章

少女漫画を変革した萩尾望都①

——ルーツから初期作品まで

手塚治虫の『新選組』に衝撃を受ける／手塚治虫とつげ義春をミックスしたような漫画家／伝説的な漫画誌『COM』と『ガロ』／伝説の漫画家・岡田史子／「岡田才人のこと」／「花の二四年組」に与えた影響／少女から大人になる恐怖／講談社「なかよし」にて「ルルとミミ」でデビュー／少女が少年として生きる物語／珠玉の作品「秋の旅」／これまでの「母娘もの」の常識を吹き飛ばす

第三章

少女漫画を変革した萩尾望都②

——『ポーの一族』『トーマの心臓』はどのようにして生まれたか

伝説的な漫画「11月のギムナジウム」／性から遠く離れた、天使のような美少年たち／「大泉サロン」時代の武勇伝／伝説の漫画「トーマの心臓」／「トーマの心臓」のモチーフになった映画／雑誌連載時の初回読者アンケートが「最下位」／死ねない孤独を描いた『ポーの一族』／作家の魅力は「線」に表れる／構成力と省略のすこみ「グレンスミスの呪

第四章

「鴨川つばめ」が残したもの

——『マカロニほうれん荘』以前・以後

い／萩尾望都自身を投影した「イグアナの娘」／本格SFの出発点的作品「あそび玉」／SF漫画の金字塔「11人いる！」／最初の萩尾望都体験／不動の生涯ベストワン「半神」／「時間の経過」を表現する圧巻の技術／「漫画家をやめよう」と思うほどの衝撃／父と自分の関係を重ね合わせた「半神」／父親が大嫌いだった／父親との最後の会話／「半神」を今こそ読んでほしい理由

涙、涙の「マカロニほうれん荘展」／現実離れたキャラクター、きんどーさんとトシちゃん／「ほうれん荘グループ」一番の人気者／現実逃避させてくれた救世主／ヒップホップにおけるサンプリングを漫画で行う／山上たつひこ先生も危機感を抱いた才能／脈絡なく放り込まれたアートなギャグの魅力／青春譚としてのマカロニ／壊れてしまった鴨川つばめ先生／『マカロニほうれん荘』の最後／酒井七馬に共感し、妥協を許さない創作姿勢に／いつか恩返しをしたい

第五章

『鬼滅の刃』の少女漫画要素

——他者の「痛み」に寄り添う

社会現象となった『鬼滅の刃』／『鬼滅の刃』が大ヒットした理由／『天使なんかじゃない』との共通点／紡木たく先生から続く「少女漫画の系譜」／切ない顔(表情)の演出／二作品に共通する「あなたになりたい」／なぜ少女漫画家のデビューは早いのか／少女漫画に求められるもの／「別マまんがスクール」とは何か／少年漫画と少女漫画の違い／「強くなるための理由」が人のため／今の読者が求めているもの／女の子の好きなことと「恋愛」ではなくってきた／困っている人・弱っている人に寄り添う

あとがき

主要参考文献

まえがきにかえて

By きたがわ翔



おっ
萌え絵プリントの
Tシャツ



けど 私が
学生だった80年代では

こういうファッションが
堂々と受け入れられる
今の時代って素晴らしい



今やどの
チームでも
活躍してる

当時私は外見こそ
ごつい体育会系でしたが

はい!!
キモい人決定です!!



漫画アニメ大好き!!
そういう絵の入った紙バッグでも
持って歩いた日にや

既にプロの
「少女漫画家」であり
加えて重度の
漫画オタク……

はい!!
とっても
キモい人
決定です!!

特に70年代あたりの漫画を
語り出すと止まりません

音楽でもファッションでも漫画でも
この時代のクリエイター達の荒削りな
パワーたるやマジ凄くって……



ちなみに
鉄道オタクが「撮り鉄」「音鉄」「乗り鉄」
などに分かれるようにジャンルの中
にも更にカテゴリー分けがありまして

私の場合漫画は読むのも描くのも
好きでしたが、しかしそれ以上に

この作家この作品が
他のどんな作家どんな作品を
(漫画以外でも可) リス펙トして
いるのか?



膨大な漫画を眺めつつ
自分なりの見解を導き出しては
一人はくそ笑むという……
はい!! ここまで来ると
キモい人キングに
認定です!!

当然ながら当時
そんなマニアックな話題に
つきあってくれる友人など
まわりにおらず……



りぼんにも
メジャーなセンスの
漫画が出てきたよね



さいでつか……

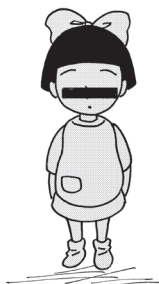


しかし君達はちびまる子ちゃんに
出てくる丸尾くんや花輪くんや
みぎわさんなどの名前がみな
ガロ系の作家から
取られていることなど
知るよしもないのだろう

絵柄だって「田辺のつる」あたりの
高野文子先生へのリスペクトを
感じるし

伝説の漫金超創刊号に
載った漫画

さくら先生バリバリの
サブカル大好き
女子 だと思うけど



はつきり言って
面白くて売れているイコール
メジャーなセンスって誤じや
ないと思うんだよね~~~~

さくら先生すみません、まる子大好きです。

あ
アップルシードの
新刊出た

この絵って
AKIRAの人と
雰囲気似てね？

いや…多分
バンドデシネの
メビウスだと思うけど
。。。

のぞみ♡ウィッチイズの
主人公の女の子が
自分のことボクっていうの
新しいよな~~~~

それ絶対
10年前の少女漫画
つらいぜ！ボクちゃん
へのリスペクトだと
思うけど……

「主人公同じ」
のぞみ「だっ

あああ!!
過去にこういった
つぶやきを心の中で
何度したこと
だろうか!!



だってき~~~~
ドン引きされて
「友達やめよう」とか
言われたく
なかったし~~~~
あう~~~~

ところがその後
デジタルが普及し
超情報化社会の中で
趣味人達がSNS等を
使いあらゆるマニアックな
情報をこぞって発信し
はじめたのであった

ついに
オタクの時代
到来!!

とはいえ
相も変わらず
日陰ものの私

ほっほっほ
オタ知識は
渋茶でもすすりながら
一人で楽しむのが
一番じゃ〜

い
全開

そんな中
旧知の友 漫画家の
山田玲司氏から連絡が

きたがわく
うちの番組に
出てくれない?

彼は現在ニコニコチャンネルにおいて
「山田玲司のヤングサンデー」という番組を
持っており私と漫画についての
トークをやりたいとの相談だった

うーん
どうしよう
ドン引きされるのも
怖いしな〜

鴨川つばめに
ついて語らない?

やばい：
めっちゃ
語りたい。



きたがわ きんごーさん

ちょ……
あの鴨川先生について
語る……？
っていうか
鴨川先生を
オレなんか
語っていいの？

でも……
でも……

その後はじまった
「れいとしよう」はたくさんの
視聴者様に支えられ
不定期ながら現在も
続いております

玲ちゃん
ヤンサンスタッフの皆さん
いつもいつも
ありがとうございます

漫画のクソオタで
ほんつつつと——に
良かったです!!

だから今なら言えます
私……



そして今回なんと
トークをまとめた本まで
出版されることに
なりました

第一章

不朽の名作『ドカベン』と『スラムダンク』
——水島新司から井上雄彦への系譜

スポーツ漫画の金字塔

スポーツ漫画には、時代ごとにそれぞれ「バイブル」と呼ぶべき作品が存在します。バスケットボール人気の火付け役となった名作、井上雄彦先生の『SLAMDUNK』（以下、スラムダンク）も、そのひとつです。

『スラムダンク』の連載が『週刊少年ジャンプ』（集英社）で始まった一九九〇年以降、それまで日本ではマイナースポーツとされていたバスケットボールに、多くの若者が夢中になりました。その後、バスケットボールのプロリーグが誕生するなど、競技人口が爆発的に増えたのはご存じの通りです。

その『スラムダンク』と同じように、僕たち一九六〇年代生まれの世代が大いにハマったスポーツ漫画が存在します。アニメ化や実写映画化はもちろん、テレビゲーム化もされた野球漫画の金字塔、水島新司先生の『ドカベン』です。

僕が小学生だった一九七〇年代は、多くの少年たちが『ドカベン』を夢中になって読んでいました。僕もコミックス（単行本）を必死になって買うほど大好きな漫画でしたが、あるときから集めるのをやめてしまいました。なぜ、それほど大好きな作品だったのに、コミックスを買わなくなったのか。それは、「買わなくても読むことができた」からです。

友人の家はもちろん、理髪店や喫茶店など、どこへ行っても『ドカベン』のコミックスは置いてありました。そのことに気づいて以来、僕は「少ない小遣いをやりくりして『ドカベン』を買うよりも、むしろあまり人が読まない漫画を買おう」と考えるようになったのです。子どもなりの「財テク」ですが、それほどまでに当時『ドカベン』は、多くの日本人に読まれていました。

日本が誇る二大「化け物コンテンツ」

この『ドカベン』という作品に夢中になっていたのは、男の子だけではありません。女の子、とくに中学・高校くらいの女子生徒たちは、主要登場人物の一人である「里中智^{さとなか ちか}」というキャラクターに心をときめかせていました。二月一四日のバレンタインデーには、



井上雄彦『SLAM DUNK』
ジャンプ・コミックス版
第1巻(全31巻)、集英社、
1991年



水島新司『ドカベン』
少年チャンピオン・コミックス版
第31巻(全48巻)、
秋田書店、1978年

里中くん宛てに五〇〇個もの大量のチョコレートが水島先生の元へ届いたと言われている。

『ドカベン』と『スラムダンク』は、一見すると絵柄もストーリーもまったく違うので、共通点があるようには感じられないかもしれませんが。しかも、水島先生が僕らの「オヤジ世代」なのに対し、井上先生は僕と同世代なので、文字通り親子ほど年が離れています。絵柄もストーリーも所属する世代も異なりますが、それでも両作品を丹念に見ていくと、共通する部分があることに気がつくでしょう。本書の巻頭でもあるこの章では、日本が誇る二大「化け物コンテンツ」の『ドカベン』と『スラムダンク』に通底するテーマや、物語の構造について考察します。

全二〇五巻にものぼる壮大な物語

多くの方がご存じだと思いますが、『ドカベン』は神奈川県にある明訓高校を舞台に、主人公の「ドカベン」こと山田太郎が個性豊かなチームメイトの岩鬼正美、里中智、殿馬一人、そして屈強なライバルたちと切磋琢磨しながら成長していく、主に高校野球を題材にした漫画です。「主に高校野球」と述べたのは、連載開始当初の『ドカベン』が「柔道

漫画」だったからです。『ドカベン』は柔道漫画として始まり、途中から高校野球漫画になるのですが、これに関しては水島先生自身が「ライバル誌で別の野球漫画を描いていたからだ」と語っています。

『ドカベン』はシリーズすべてを合わせると、「少年チャンピオン・コミックス」で全二〇五巻にもものぼる壮大な作品です。構成としては、高校三年生の夏の甲子園大会直前までを描いた、いわゆる「本編（連載期間一九七二～八一年）」が全四八巻、その続編として高校三年時の夏の大会を描いた「『大甲子園』編（連載期間一九八三～八七年）」が全二六巻、山田や岩鬼が実在する日本のプロ球団で活躍する「プロ野球編（連載期間一九九五～二〇〇四年）」が全五二巻、かつての明訓ナインが「東京スーパースターズ」という架空のチームに移籍する「スーパースターズ編（連載期間二〇〇四～一二年）」が全四五巻、最後はセ・パ両リーグの一六球団（実在する二球団＋架空の四球団）が対決する「ドリームトーナメント編（連載期間二〇一三～一八年）」が全三四巻となっています。完結したのは二〇一八年です。で、実に四六年間にわたる長期連載作品でした。

一方の『スラムダンク』は、同じく神奈川にある湘北高校に通う主人公の「桜木花道」という不良男子がバスケットボールと出会い、やはり仲間とともに成長していくという、

高校バスケット部を舞台にした作品です。

『スラムダンク』は一九九〇年から九六年までのあいだに、全二七六話が連載されました。コミックスのシリーズ累計発行部数は一億二〇〇〇万部以上と、驚異的な数字です。ちなみに井上先生は、印税の一部を原資に「スラムダンク奨学金」という基金を二〇〇六年に創設し、高校卒業後に競技を続ける意志と能力を持ちながら、経済的な理由などからその夢を果たせない若い選手たちを支援しています。

『ドカベン』と『スラムダンク』の関係

『スラムダンク』が『ドカベン』から多大な影響を受けていることについては、井上先生自身が「漫画を好きになったきっかけで、漫画家になりたいって思うきっかけでもありました」と、水島先生との対談（『ドカベン ドリームトーナメント編』第三巻）で告白しています。僕もそうなのですが、プロの漫画家を目指す若者というのは、小さな頃から自分の大好きな漫画を「模写」してきました。憧れの漫画家の絵を、とにかく必死に真似をする。井上先生も子どもの頃によく『ドカベン』を模写しては学校へ持って行き、同じように絵の上手な友人と競い合っていたと語っています。

井上先生のみならず、『ドカベン』は過去・現在を含め、多くの漫画家に影響を与えました。この作品には、とにかく「面白いスポーツ漫画を描くための方法論」が詰まっています。極論ではなく、『ドカベン』を参考にして描いたら、つまらなくなるわけがない」というくらい「最高のスポーツ漫画の教科書」なのです。『ドカベン』、さらには水島漫画の魅力について、ここから掘り下げていきたいと思います。

苦勞して漫画家に

水島新司先生は一九三九年四月一〇日、新潟県で生まれました。実家は魚屋さんをしていたのですが、父親に借金があり、子どもの頃の生活は非常に苦しかったそうです。

水島先生は中学三年生のときに、父親が借金をしていた水産問屋へ働きに出されました。そうした厳しい生活が続けながら漫画家になる決意をしたのですが、そのあたりの事情が佐藤まさあき先生の著書に詳しく書かれています。佐藤まさあき先生は、貸本漫画時代に劇画という分野を確立した「劇画工房」のメンバーの一人で、劇画界を代表する人物です。

水島の一家は新潟で魚屋をしており、父親が並外れたパチンコ好きで、それで方々に

借金を作っていた。そのため水島は中学を三年の二学期で中退し、借金のある仲買人のところへ勤めさせられたりしていたのである。

まるで根性物のドラマの設定のようである。その月給は六千円ほどであったが、父親の借金の返済に四千円を引かれることになっており、手取りはわずか二千円であったという。

仕事は早朝の四時に始まり午後の三時まで続く。それから一時間ほどの休憩ののち、今度は夜、家業の魚屋を手伝うというのだ。

そんな中で、彼はわずかの暇を見つけて、日の丸の応募作品を描き上げたのだ。

（佐藤まさあき『「劇画の星」をめざして―誰も書かなかった〈劇画内幕史〉』文藝春秋）

「日の丸」というのは、当時大阪にあった貸本漫画出版社「日の丸文庫」のことです。水島先生は睡眠時間を削り、わずかな暇を見つけては日の丸文庫の漫画短編集『影』の新人コンクールへ投稿する作品を描き続けました。そして一九五八年に、応募作品であった「深夜の客」でデビューします。

前掲の『「劇画の星」をめざして』によると、その新人コンクールでは審査員の絶対多

数の支持により、「とある作者」の特選が決まりかけていました。ところが、佐藤まさあき先生が〈画はまだ泥臭いがストーリーに一本シンが通っている〉と、水島先生の作品を高く評価したことから、水島先生の「深夜の客」は二席、つまり第二位として表彰されることになったのです。

授賞式の日、水島先生は肩を震わせながら泣いていました。これまでの苦労を考えれば、それも当然です。授賞式の晩、水島先生は日の丸文庫の社長・山田秀三氏の家に泊めてもらいました。その翌日、大阪を案内してもらっているときに、「漫画を本格的に勉強するなら、大阪に出てくればよい。日の丸の仕事を手伝いながら、漫画の勉強をさせてやろう」という約束を取りつけます。

この提案に、新潟の家族は猛反対しました。そこで水島先生は、「一年で成果が出なければ帰郷し、それからはいつさい筆をとらない」という約束を交わし、大阪へ出てきたのです。

大阪・日の丸文庫時代の水島先生は、朝から晩まで、それこそ馬車馬のように働きました。夜の一〇時くらいに仕事が終わっては寝る間を惜しんで漫画を描き、原稿料は一ペーシ八〇円でしたが、なんと七万円ものお金を貯めたそうです。約束した一年後に実家へ帰

省すると、家族は「泥棒でもしたのか」と驚きました。無事に家族の理解を得られた水島先生は、晴れて漫画家としての道を突き進むことになったのです。

ちなみに、水島先生をおさえて一席に入賞した作家は、その後一作も発表することなく漫画界から消えてしまいました。以降の水島先生の偉業を考えると、人の運命というもの不思議さを思わずにはいられません。

もし社長の山田秀三氏が水島先生に声をかけなかったら、そして二席を受賞したとは言え水島先生が家族の反対を押し切って大阪へ出てこなかったら、水島新司という漫画界の巨星はもとより、『ドカベン』もこの世には生まれませんでした。そうなると『スラムダンク』も描かれていなかったという可能性すらあります。もちろん、水島先生の才能と努力があったからこそではありますが、人との出会いや偶然という神様の采配といったものを感じずにはいられないエピソードです。

生きる伝説・水島新司

これは僕の持論ですが、どれほどシリアスな作品であっても、漫画には「ユーモアのセンス」が必要です。漫画は「エンターテインメント作品」なので、何よりもまず読者に楽

しんでもらわなくてはなりません。人間の極限状態を描くときであっても、ユーモアの精神を忘れてはならず、それこそが読者への最大のサービスだと思います。

ユーモアというのは、言い換えれば「自己戯画化」する能力です。自分を道化にすることで周りを和やかにし、その場の空気を支配する。水島先生の漫画には、このユーモアがふんだんに込められています。

そうしたユーモアのセンスを、水島先生は子ども時代に身につけたのかもしれませんが、小学生時代の水島先生は実家が貧しかったこともあり、教科書を満足に揃えることができませんでした。だから時間割を調べては、ほかのクラスの友人に教科書を借りていたそうです。

教科書の貸し借りを円滑に行うためには、人気者になるしかありません。そう考えた水島先生は、運動場へ出ては落語や漫才をして、みんなを楽しませていました。前出の佐藤まさあき先生は、水島先生と出会った当時のことを振り返り、〈実に快活で、面白い男であつた〉と述べ、さらに〈落語やモノマネをやらしたら日の丸で右に出るものはいない〉とまで評しています。こうしたエピソードを眺めるだけでも、水島先生の人生は漫画そのものの、まさに「生きる伝説」と呼ぶに相応しい漫画家です。

プロが語る胸アツ「神」漫画 1970-2020
きたがわ翔・著

発 行：集英社インターナショナル（発売：集英社）
定 価：902 円 (10%税込)
発売日：2021 年 10 月 7 日
I S B N：978-4-7976-8082-9

ネット書店でのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)